

旗の台駅周辺のバリアフリー化にともない、荏原第二地域センターも、お体の不自由な方も高齢の方も、どなたにも以前より利用しやすく変わりました。

駐輪場の拡大工事も同時に進み、道路から入口までがスロープ化されてゆるやかにになり、手すりも設置されました。車いすやバギーなどのアプローチもよりスムーズになりました。

点字ブロックも、これまでのカウンターへの誘導以外に、エレベーターまで新規に設置されました。

また館内案内板も、誰でもトイレ等がカラー表示に変わって、一目で見やすくなりました。



荏原第二地域センターがバリアフリーになりました!

見て歩記



大きく変わったのは、入ってすぐの住民票・戸籍・印鑑証明・税証明の申請書を記入する記載台や窓口のカウンターです。椅子に腰かけたり、車いすでも利用できる低い記載台やカウンターも、新しく設置されていました。記載台やカウンターは、木目調で統一されていて「明るくなったね」と評判が良いそうです。

バリアフリーにリニューアルした荏原第二地域センターを、これからどうぞご利用ください。



旗の台駅周辺

バリアフリー化関連工事に

ついて

荏原第二地域センター

所長 東山 浩

品川区では、バリアフリー環境の整備に力を入れていますが、平成20年3月に「品川区すべての人にやさしいまちづくり推進計画」を策定し、バリアフリーの考え方よりも一歩先となるユニバーサルデザインの考え方を導入し、すべての人ができる限り快適で安全・安心に過ごせるやさしいまちづくりに必要な取り組みを進めています。

また、今後の品川区におけるバリアフリー計画の策定として、重点的にバリアフリー化を推進する地区(重点整備地区)を順次設定し、着実なバリアフリーの推進を図っていくところとです。

そのため、身近な生活圏を支え



る拠点として、区の地域生活

拠点にも位置づけられている

旗の台駅周辺において計画を

策定することが、区内の総合的な都市

機能の増進につながるという理由で、

今回「品川区旗の台駅周辺地区バリア

フリー計画」を策定することになりました。



この計画(案)に基づき、旗の台駅周辺地区の生活関連施設として、荏原第二地域センター、第二延山小学校、旗の台地域の文化センター・児童センター・保育園・シルバーセンター等で点字ブロックの整備、だれでもトイレの整備、出入口の段差解消等を行い、大井町線旗の台駅ホームでは可動式ホーム柵の設置計画があります。

また、生活関連経路として、都道・区道の点字ブロックの補修と整備や旗の台公園・荏原南公園の階段等への手すり設置・歩行や通行空間の確保・ベンチの改善を行う予定です。

いざ、防災設備や訓練があるか

知っていますか

旗の台南町会 会長 飯田 明善

旗の台南町会では、いろんな防災行事を沢山の参加を得て実施しています。

今回の企画は、自分の地域にどんな防災設備や機器、備品があるか知っていますか。もし身の回りで災害が起こった時には、それを知っているか否かでは災害時の対応も随分違ってきます。そんな呼び掛けで『地域防災設備見学ツアー』を十二月十日(日)に行いました。

当日は幸い天候に恵まれ、子供達や八十歳代の方など世代を超えた七十人もの人たちが参加してくれました。区役所の防災課や荏原消防署旗の台出張所の応援もあり、区民消防隊、ミニポンプ隊、備蓄委員と役員が設備の機能説明や誘導など大活躍してくれました。

た。

九時四十分には会館集合、参加者名簿に記入し、会長挨拶の後、当日の主旨と注意を説明。隊列を組んで出発↓消防署旗の台出張所で消防車・救急車・影↓「スタンドパイプの格納庫見学と放水デモ訓練」↓「D級ポンプ格納庫」↓「消火器A」↓「スタンドパイプB格納庫」↓「消火器B」↓「耐震型マンホール」(仮設トイレ設置可能) ↓「C級ポンプ格納庫」↓「防火水槽」↓「AED設置場所」↓「町会備蓄庫の見学と備蓄の主旨と備蓄物の確認」↓「南町会会館に戻りました。約二時間の行程でした。

質問も多く出て実りの多い催しになりました。防災役員の知識と丁寧な説明で、町会の防災力の向上が実感できました催しでした。お弁当と参加賞をお渡しし、十二時に解散致しました。

